

平成28年度 第1回伊勢崎市総合教育会議 議事録

会議の名称	平成28年度 第1回総合教育会議
開催日時	平成28年5月30日（月）午後3時30分～午後4時35分
開催場所	伊勢崎市役所東館5階第4会議室
出席者氏名	<p>【委員】 五十嵐清隆市長、萩原裕子教育委員長、大矢光利教育委員長職務代行者、宮川亮子教育委員、高橋慶一教育委員、徳江基行教育長</p> <p>【事務局】 （企画部）福田企画部長、千吉良企画部副部長、新井企画調整課長 高柳係長、栗原主査、高橋主任 （教育部）萩原教育部長、村井教育部副部長、細井教育部総務課長 三村教育部学校教育課長、町田教育部学校教育課指導主事 マーティン・キャンベル四ツ葉学園中等教育学校ALT 田部井係長、阿左美主査、金井主事</p>
傍聴人数	1人
会議の議題	<p>報告事項（1）伊勢崎市いじめ問題対策連絡協議会条例の制定について</p> <p>協議事項（1）外国籍児童に対する学習指導・支援について （2）伊勢崎市のグローバル教育について</p>
会議資料の内容	<p>【資料1-1】伊勢崎市いじめ問題対策連絡協議会条例（案）の制定について パブリックコメント（意見募集）の内容</p> <p>【資料1-2】伊勢崎市いじめ対策組織（案）</p> <p>【資料2-1】外国籍児童生徒に対する支援について</p> <p>【資料2-2】外国籍児童生徒受け入れの流れ</p> <p>【資料2-3】子ども日本語教室未来塾業務委託について</p> <p>【資料3-1】伊勢崎市のグローバル教育について</p> <p>【資料3-2】伊勢崎市グローバル教育構想図</p> <p>【資料3-3】伊勢崎市小中一貫英語教育カリキュラム構想図</p>

会議における議事の経過及び発言の要旨

1 開会〔企画部長〕

2 市長あいさつ

本日は、平成28年度第1回伊勢崎市総合教育会議に出席いただき、ありがとうございます。昨年度は、委員の皆様から貴重な意見をいただいたおかげで、伊勢崎市教育振興施策の大綱を3月に策定でき、この総合教育会議の大きな目的のひとつを果たすことができました。

本年度も引き続き、本会議を通じて、教育委員会と十分な協議や調整を行いながら、教育に関する方向性を共有することで、より一層の連携強化を図りたいと考えています。

本日は、伊勢崎市いじめ問題対策連絡協議会条例に関する報告及び外国籍児童に対する学習指導と支援、伊勢崎市のグローバル教育についてご協議をお願いする予定です。委員の皆様には、忌憚のない御意見をお聞かせいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

3 教育委員長あいさつ

本会議により、五十嵐市長と教育委員がお話しできますことを大変ありがたく思っています。市長部局と今まで以上の連携をとることにより、様々な面で迅速に対応できるようになること、うれしく思います。

子どもが元気な国は未来が明るいといいます。未来を担う子ども達が元気いっばいに育っていただけるような、伊勢崎市になることを願っています。

4 委員自己紹介

(高橋委員から自己紹介)

5 署名委員の指名〔市長〕

本会議では、議事録の作成の際に、議長及び委員1名に、その内容を確認したことへの署名をいただくこととなっています。今回はその署名を萩原教育委員長にお願いいたします。

6 報告事項

(1) 伊勢崎市いじめ問題対策連絡協議会条例の制定について

【資料1-1～2】〔学校教育課長〕

国では、平成25年に滋賀県の大津市で起こりました、いじめによる中学生の自殺事件を受け、いじめ防止対策推進法が制定施行されました。本市でも、いじめ防止基本方針を制定し、いじめの未然防止、早期発見及び対応に努めています。

伊勢崎市いじめ問題対策連絡協議会条例はいじめ防止対策推進法に基づき、いじめの重大事案発生時に備え、関係機関等の連携体制である「いじめ問題対策連絡協議会」の設置、また、いじめの事実関係を調査するための「いじめ問題調査委員会」及び「いじめ問題再調査委員会」を設けるものです。

なお、「いじめ問題調査委員会」は教育委員会が諮問するのに対し、「いじめ問題再調査委員会」は市長が諮問するものです。重大事案発生時には、まず「いじめ問題調査委員会」が調査を実施しますが、市長が再調査を必要と判断した場合には「いじめ問題再調査委員会」が改めて調査を行うことができます。

この条例制定に向け、4月13日から5月12日までパブリックコメント手続を行いました。市民の方からのご意見はありませんでした。今後は9月議会での条例制定に向けて、準備を進めていきます。

【質疑・意見等】

・特になし

6 協議事項

(1) 外国籍児童に対する学習指導・支援について

【資料2-1～3】 [学校教育課長]

本市の小・中学校には、900人を超える外国籍の児童、生徒が在籍しています。その中には年度途中の編入も多く、円滑な受入れや日本語の指導が重要であり、初期対応校や拠点校、各学校の日本語教室でその状況に応じた支援を行っています。これまでの支援は、学校が中心に行っていましたが、今年度から学校外の地域での活動として、日本語の習得や就学、学習指導のために「こども日本語教室未来塾」もあわせて行っています。この事業は文部科学省の「帰国・外国人児童生徒等教育の推進支援事業」の一環として、「NPO法人 Jコミュニケーション」に委託し、教育部総務課と学校教育課が連携し推進しています。この事業の予算額は100万円で、その内、国の補助が3分の1となります。放課後や土曜日に年間43回実施しています。外国籍の児童、生徒が学校だけではなく、地域社会からも温かい支援を受け、地域に適応し、自立し、伊勢崎市民である自覚を持ち、グローバル化する地域社会を支える存在になることを願っています。

【質疑・意見等】

- ・市長は、この事業に対し、今後どのように考えていますか。 [教育長]
- 現状、外国籍の子ども達が、日本語が不得意なために地域社会に溶け込みづらい状況だと考えています。10年ほど前は、資金的な援助がない中、ボランティアの方々に、外国籍の方に日本語の支援をしていただいていた。数年前からは、ボランティアの方々の交通費だけでも支援できないかと考え、市が委託契約している国際交流協会を通して支援を行っていましたが、特定の地区に対する支援は3年間と限られており、昨年で期限がきてしまいました。そこで、今年度から制度化して支援をしていくため、教育委員会が委託するという形をとりました。これからも市として応援して行きたいと考えています。 [市長]
- 外国の方が、伊勢崎市に定住しやすくなるこの事業を、是非、積極的に続けていただきたいと思います。 [大矢委員]
- 伊勢崎に住む外国籍の方の人口は、東日本大震災のあと若干減少しましたが、最近では増加傾向にあり、1万人を超えている状況です。この皆様が伊勢崎の産業を支えている面もあります。それらの方々が、笑顔で地域の方と円満に過ごすためには、子どもが地域に溶け込める環境をつくる必要があるため、この事業は是非継続したいと考えています。 [市長]
- 言語が話せないと非行にはしてしまうこともあると思います。そういう意味でも、有意義なものだと感じます。 [高橋委員]
- 日本でも少子高齢化問題があります。これからの日本を担う人材として、外国籍の児童、生徒への教育はますます大きな役割を持っていくと考えています。そのため、この事業で日本語をしっかりと学んで、日本の子どもたちとのびのび学校生活を送ってほしいと思います。また、この事業で同じ母国の子どもや親同士の交流が広がると思います。 [宮川委員]
- すべての国の子ども達にとって有効な取組であるので、このような施策はずっと継続してほしいと思います。 [萩原委員]
- 伊勢崎には59カ国の方が住んでいて、それぞれ異なった価値観を持っています。例えば、お昼にお祈りをするために家に帰らなければならない子どもや水泳の授業で肌を見せることが難しい子どもなどがいます。それらの文化的な違いを難しく感じています。また、15歳の3月31日で義務教育が終わりますが、その1、2カ月前に転入してくる子どももいます。日本の学校に1、2カ月だけ通った子どもに卒業証書を出しているのかということもあります。そのようなことがあるので、土曜日、日

曜日にこういう機会があることは大事だと感じます。〔教育長〕

→聞いた話ですが、外国籍の子がパーティーで付けていたピアスをそのまま学校に付けて行ってしまい、先生から注意を受けて以来、学校に行くことが嫌になったと聞いたことがあります。また、ブラジルでは成績が悪ければ留年がありますが、日本にはそれがなく、文化の違いを感じます。〔大矢委員〕

→現在のように多くの外国人の子どもが暮らしているという状況はじめてなので、この「こども日本語教室未来塾」を通じて、言葉だけではなく、文化面でもお互いに理解を深めることにより、徐々によい方向に向かっていくと思います。市としては、Jコミュニケーションの方々が続けていく限り、支援を続けたいと考えています。〔市長〕

・Jコミュニケーションの活動を通じて、ブラジルから来たポルトガル語しか話せなかった子どもで、日本語を自由に話せるようになり、英語も教えているので英語も話せるようになったという子どももいます。

〔教育長〕

→59カ国の方が在住している状況で、今回はポルトガル語の方に対する支援が中心になります。すべての言語に対応することは難しいと考えていますので、学校で行っている日本語教室でコミュニケーションを図ることにより、日本の文化や地域に適応できるようにしていきたいと思えます。また、Jコミュニケーションのような団体が数多く出てくるとありがたいと思えます。〔学校教育課長〕

→参加していない子どもに参加を促すためには、この事業を通じて各国の交流ができ、その交流が参加促進につながればと思います。〔教育長〕

(2) 伊勢崎市のグローバル教育について【資料3-1~3】

〔学校教育課長〕

伊勢崎市には59カ国の方が住んでいて、グローバル化する世界の縮図と考えています。そこで、グローバル教育のテーマを「ひろがる言葉」、「ひろがる未来」、「ひろがる世界」とし、学校教育全体で取り組んでいます。また、グローバル教育を推進する3つの柱を、外国籍の方を含め、伊勢崎への愛着や誇り、市民としての自覚を促す「伊勢崎ふるさと学習」、英語力やコミュニケーション力を培う「小中一貫英語教育プログラムや日本語教育の充実」、海外語学研修や教職員の英語研修などを行っている「ミズーリ州立大学との連携」としています。

今回は「ミズーリ州立大学との連携」の一貫である人事交流として、同大学から来ているマーティン先生をお招きしています。同大学では多くの留学生を受け入れています。どのような考えでそのような取組をしているのでしょうか。〔学校教育課長〕

アメリカでは多様性が重要視されていると感じます。第二次世界大戦でドイツの人々は自分たちが一番強い国と考えてしまい、多くの人を傷つけてしまいました。同じ考えを全ての人が共有するのではなく、多くの考えをそれぞれが受け入れ尊重することが大事で、多様性を尊重すべきだと考えます。〔四ツ葉学園中等教育学校ALT〕

考え方や文化の多様性を受け入れていることがアメリカの力になると感じました。伊勢崎市でも多様性を重視することで、市の力になると感じます。〔学校教育課長〕

留学をする際の窓口ができたことは大変よいと思います。また、スプリングフィールド市とは、今年が姉妹都市になってから30周年で、10月には姉妹都市委員会の方が10人ほど来日し、来年には答礼で市民の方が行く予定であり、交流が続いています。〔市長〕

【質問・意見等】

- ・マーティン先生はなぜ伊勢崎に来たいと思ったのでしょうか。

[大矢委員]

→3年前にアメリカに留学に来ている四ツ葉学園の生徒に出会い、素晴らしい印象を持ったことがきっかけです。アメリカの生徒と比べると生活態度がすばらしく、ボランティア活動などにも積極的に参加していました。

[四ツ葉学園中等教育学校ALT]

- ・本市の国際交流活動に対して多額の寄付をしてくれた方は、海外では日本人に会うことがなく、日本人は海外では活躍していないのかと考えていたそうです。市ではその寄付を受け、グローバル人材育成奨励基金を立ち上げ、毎年70人の中学生語学研修生に対し支援を行い、2週間の留学に行っていると思います。この経験を通して、子どもたちは大きな自信を得て帰ってきます。 [市長]

- ・語学留学に参加できるのは、少人数に限られてしまうので、日本に来ていただいたALTの方には、出来るだけ日本の子ども達とかかわり、新しい興味を引き出してほしいと思います。また、子ども達からも話しかけやすい雰囲気を作っていたらとありがたいと思います。 [宮川委員]

→新しい機会を増やしていきたいと考えています。

[四ツ葉学園中等教育学校ALT]

- ・伊勢崎は59カ国の方々がいるので、子どもの頃からお互いの言語でコミュニケーションをとるような環境を作ることが、これからの未来を担う子ども達のグローバル教育につながっていくと思います。 [萩原委員]

8 その他

9 閉会 [企画部長]